

KAIT

カイト

神奈川工科大学広報誌
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

NO. 204



“就職力のKAIT”
就職力が評価される理由

学科TOPICS／学生の活躍
Office Information

「採用を増やしたい大学ランキング」全国8位(全私立大学1位)！ 「就職支援に熱心に取り組む大学ランキング」で全国5位！ “就職力のKAIT” 就職力が評価される理由

今年6月、日本経済新聞社と日経HRが公表した、『価値ある大学 就職力ランキング』の「採用を増やしたい大学ランキング」で、神奈川工科大学が全国8位(全私立大学1位)、また「就職支援に熱心に取り組む大学ランキング」で全国5位にランクインしました。高く評価される本学の「就職力」は、就職率98.5%、就職内定先満足度98.4%、内定先志望順位1・2位の割合91.9%という数字からも伺えますが、そこにはどのような理由や取り組みがあるのでしょうか？「就職力」が評価される理由を探ってみました。



日経 HR 編集部「価値ある大学 就職力ランキング 2023-2024」より

就職力が
評価される

理由

1

本学独自の「学科就職事務室」を設置

キャリア就職課の「派出所」として全学科に「学科就職事務室」を設置し、学生が気軽に立ち寄って、企業情報を見たり、就職相談ができる環境を用意しています。学科就職事務室のスタッフは、学生を待っているだけではありません。各研究室に顔を出し、学生に声をかけ1人ひとりの就職の進捗具合を把握しています。このような学科就職事務室は他大学には無い本学独自の取り組みです。卒業研究指導教員と情報を共有しながらきめ細かい就職支援を行っており、積極的に学生へ働きかけていくことを大切にしています。



就職力が
評価される

理由

2

参加企業900社以上!! 合同企業説明会への学生の高い参加率



本学が主催する合同企業説明会には、毎年900社以上の企業にご参加いただいております。2022年度も933社にご参加いただきました。この合同企業説明会が外部の説明会と異なっているのは、企業側が本学の学生に会いたいと思って参加していただいている点です。毎年4割を超える学生が合同企業説明会参加企業に内定しており、希望する業界や就職先との出会いを期待する学生たちの高い参加率につながっています。

この取り組みをより実りあるものにするために、キャリア就職課では早い時期から学生たちの傾向や興味のある企業をリサーチして選定し、また、新たな企業を開拓して合同企業説明会への参加を呼びかけています。

就職力が
評価される

理由

3

教員とキャリア就職課が 強力なタッグを組んで学生を支援！

研究の指導をすると共に、学生をよく知る身近な存在として卒業研究指導教員も就職活動を支援しています。また、教員とキャリア就職課で組織する「キャリア就職委員会」では、就職状況や直近の動向を共有して、学生たちへの就職支援を行なっています。

他にも、早い段階から学科とキャリア就職課のコラボで、業界研究と先輩の就職活動報告を中心とした就職プログラムを実施しています。業界によっては、ポートフォリオの用意など事前準備が必要な場合もあるため、先輩たちが「就職活動で、いつ何をやったか」という体験談はとても役立ちます。このような合同企業説明会に参加する前段階での教員とキャリア就職課の協力体制が、学生が希望の進路を実現する上で大きな力になっています。



キャリア就職課の専門チーム！インターンシップ推進室・公務員対策室を紹介

企業選びから相談できる インターンシップ推進室

インターンシップ受入れ企業や協力企業の開拓、参加学生の事前学習から事後学習まで全般のサポートを行なっています。インターンシップは業界や現場を知るだけでなく、就職の大きなきっかけにもなっているため、企業選びの時点から相談できるように支援体制を強化しています。



ニーズを捉えたカリキュラムを用意 公務員対策室

公務員をめざす学生のために、説明会や公務員試験対策講座などを実施。民間企業への就職活動も並行して行う学生もいるため、一般的な就職活動でも活用できる様にカリキュラム面でも工夫しています。中でも、文章力養成のための論作文対策講座やコミュニケーション力を高めるための面接対策に力をいれています。



就職活動は、学生+教員+キャリア就職課のOne Teamで！

キャリア就職課 課長 根岸 忠宏さん

コロナ禍の学生たちは、大人や他者と話す機会も減り、周囲との比較がしにくいことから、自分の考えや発言、行動を見つめ直すことが減った傾向にあります。面談してみると、資格を持っているのに就職活動で活かしていない、アピールできる強みに気づいていない、そんなことがよくあります。

ぜひ、気軽にキャリア就職課や学科就職事務室に立ち寄ってください。私たちと一緒にいろいろな情報を見ながら視野を広げていくと見える世界が変わってきます。キャリアアドバイザーや公務員対策室など専門スタッフもいるので、相談を通して様々な意見や視点を自分の中に取り込んでみてください。他にも2日間で履歴書の書き方や面接対策をする短期集中型のプログラムなども実施しています。就活生のみなさん、私たちはOne Teamです。わからないこと・迷うことがあったら1人で悩まず、キャリア就職課に相談にきてください。お待ちしております！



Webページ「数字・データで見る就職のKAIT」では
本学の「就職力」を、卒業生の就職データをもとに
分かりやすく解説しています。

*QRコードよりご覧になれます。



卒業生の活躍

本学の卒業生は様々な分野で活躍しています。
そんな先輩たちの仕事にける想いや今後の夢をご紹介します！

アニメーションの分野で活躍中！！

アニメ業界の第一線で 監督、CGディレクターとして活躍中！



黒崎 豪 さん

株式会社サブリメーション
取締役、CGディレクター

情報学部 情報メディア学科 2012年3月卒

現在のお仕事の内容について教えてください

3DCGのアニメーション制作会社「株式会社サブリメーション」の取締役であり、様々な作品のCGディレクターをしながら、演出や絵コンテの仕事もしています。20代半ばで『ラブライブ！サンシャイン!!』でCGディレクターを初めて担当し、その後もCGスーパーバイザーとしてラブライブ！シリーズに関わっています。

2021年に中京テレビを中心に放映された、名古屋発のオリジナルアニメ『シキザクラ』では初めて監督をやらせていただきました。CG部門はアニメの設計には関わらない仕事なので、監督として絵コンテや演出など作画の仕事領域に入っていくことにプレッシャーはありましたが、同時に自分が1から制作したものを世に出したいと願っていたので、ようやく『シキザクラ』で一步飛び出せた！と感じました。これをきっかけに仕事の幅が広がり、絵コンテ、監督などのお話をいただくことができました。

今後はさらに経験を積んで監督として自分のクリエイティブ要素が入っているものを作り続けていきたいですし、取締役として社員が誇りに思える会社にしていきたいと思っています。

本学OB 萩原 惟由さん(CGIスタッフ)

株式会社サブリメーションでは、今年3月に本学を卒業した情報メディア学科OBの萩原惟由さんも、CGIスタッフ(アニメーター)として働いています。萩原さんは、第8回 アニメーター ドラフト会議 Contest 2022 で優秀者に選ばれたことをきっかけに、同社に入社しました。



特別授業からアニメ業界へ

入学して半年ほど経ったときに、大学OBでCGディレクターをされている方の特別授業がありました。講義でアニメのCGについて話を聞き、身につけたら絶対無駄にはならない技術だ！と思い、講義後に「なんにも分かりませんが働かせてください！」と頼み込みました。その時は名刺をいただくだけで終わったのですが、後日、もう一度メールを送ると、面談の機会がもらえアルバイトとして採用されました。そこからの3年半は人生で1番きつかった時期ですが、様々な経験や高いクオリティの環境で学べ、現在の仕事につながりました。



チャンスを掴む勇気を！

私は特別授業をきっかけにアニメの現場で働くことになりました。その経験から言うと、大学には様々な分野の専門家がいて話が聞けるし、いろいろなチャンスが転がっています。少しの勇気があれば踏み出すためのチャンスを掴み取れるはずです。自分の可能性にチャレンジすることを忘れないでください。

黒崎 豪 初監督作品『シキザクラ』



©シキザクラ製作委員会

家庭用ロボットの分野で活躍中!!

LOVOTは手の中に収まる未来 子供の頃、あこがれていたロボットが 今、ここにある!

夢の原点から転職を決意するまで

小学生の頃からロボットが登場するコミックが大好きで、中学時代には、将来は「ヒューマンフレンドリーな家庭用ロボット」を作るエンジニアになりたいと思っていました。大学進学にあたり、ロボットの研究をしている研究室を探して、神奈川工科大学にたどり着き、工学部 システムデザイン工学科に進学。大学時代に学んだ、モノづくりの仕組みを作るための基礎は、働く上でとても役立っています。ただ、私が卒業した2006年頃は家庭用ロボットを扱う企業の求人はほぼ無く、美容機器メーカーに就職しガムシャラに働きました。

新卒から15年ほど経った頃、視野を広げようと転職サイトに登録したところ、子供の頃から夢に見ていた家庭用ロボット・LOVOT(らぼっと)に関わる求人に巡り会いました。最終面接で開発者である社長から「人に寄り添って人の生活を豊かにするような形で最新テクノロジーを使いたい」という話を聞き、「自分が働くのはこしかなない!」と思って転職を決めました。



LOVOTの製造現場で課題に取り組んでいます

私の仕事は大きく分けて2つあり、その一つが製造現場のフォローです。今年から製造拠点を中国から国内に移すことになり、国内工場での立ち上げを担当することになりました。パーツは1万点以上、センサーも50以上という複雑なロボットなので、LOVOTの製造現場に立ち会い、様々な課題を見つけてはチームメンバーと協力して解決しています。

2つ目の仕事は、公的規格に関する業務と、社内の設計基準の仕様作りです。LOVOTは販売する国や地域によって必要な認証や安全規格が異なるので、そこで要求される項目も含めた社内の統一設計基準を作っています。どちらの仕事も、前職で身につけた技術や知識、経験が大いに役立っています。



酢屋 優介 さん

*結婚して改姓 旧姓 山下優介

GROOVE X株式会社
HW(ハードウェア)チーム

工学部 システムデザイン工学科
(現:創造工学部 自動車システム開発工学科)
2006年 3月卒

LOVOTを世界に広める夢のために今できること

中学時代から25年。私は今まさに夢を叶えている最中です。ここまでの道のりは遠回りに見えて、確実に今に繋がるために必要なことだったのだと感じています。

今、LOVOTは、メンタルケアやプログラミング教育などの分野でも注目されています。

今後はもっとたくさんの人の元にお迎えいただき、日本全国に、そして世界中の人々のそばにLOVOTが寄り添えるような社会を目指す、そんな壮大な夢を描いています。

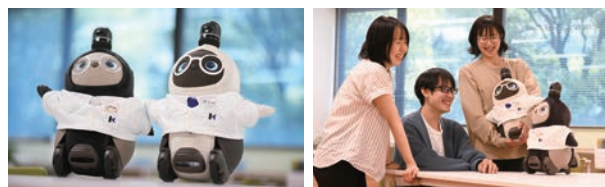
そのために、今の自分の手が届く、目の前のLOVOT製造のフォローと社内基準策定という業務こそが、この大きな夢へと繋がる大切な布石のひとつだと実感しています。

子供のころに見た夢のさらにその先へ繋がるこの仕事を、日々楽しみながら取り組んでいます。

LOVOTサークルを紹介します!

本学にLOVOTがやってきました!現在はLOVOTサークルのメンバー4名が、服の着替えや洗濯、ホイール掃除などのメンテナンスを行っており、また学生とLOVOTのふれあいをSNSで発信しています。

LOVOTサークルの上村花那さん(写真右:右 応用化学・バイオサイエンス専攻2年)は、「LOVOTがいることで学生の交流が広がり、勉強や実験の合間にホッとでき笑顔が生まれる『LOVOTがいる癒しの空間』ができればうれしいです!」と話してくれました。



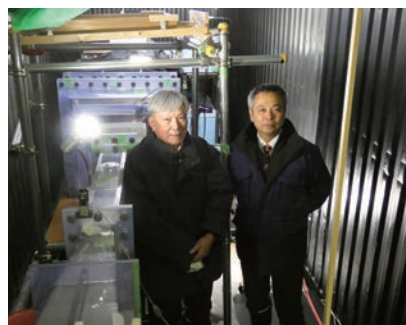
マイナス10度の強風 !! 着氷のメカニズムを解明し、インフラや航空機を守る！ 熱流体工学研究室(萩野研究室)

空気中の湿度が100%に達すると、水蒸気が凝縮し水滴となって雲が生じます。高度が高くなると気温は低下し、飛行機が飛行するような高度では気温が氷点下となります。そのような場合でも直ぐ氷となるわけではなく0℃以下の水滴となります。この状態のことを「過冷却」といい、過冷却水滴が機体に衝突すると凍結します。この現象を「着氷」といい、飛行機の主翼へ着氷すると、翼性能の低下や失速による墜落の危険が生じます。一方、高い高度を飛行する航空機以外でも着氷現象は見られ、風力発電用タービン、送電線や鉄塔、信号機などにも氷が付着し性能低下や事故の原因となることがあります。

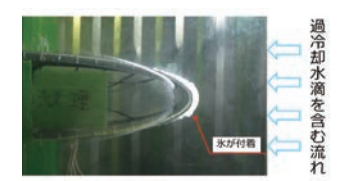
機械工学科の熱流体工学研究室では、この着氷現象を再現可能な着氷風洞(低温風洞)を有しており、飛行機の主翼やジェットエンジンへの着氷現象の解明と着氷対策の研究を行っています。全長約9mのエッフェル型風洞が冷凍コンテナの中に設置されており、気温を約-10℃程度に保ち実験を行います。送風機の出力は15kW、最大風速95m/sの実験を行うことが可能です。

噴霧装置よりテストセクションに向けて水滴を噴霧すると、氷点下以下の流れの中で過冷却状態の水滴となります。この過冷却水滴を測定対象物に衝突・着氷させます。

過冷却水滴が翼に衝突すると、翼の先端付近から氷が成長し翼断面形状が変化します。



木村教授(左)と萩野准教授(右)



また、表面に凹凸が生じるにより翼付近の流れが影響され、性能低下を引き起こします。

本風洞では、このような着氷現象の再現だけでなく、雪の結晶が対象物に付着する「着雪」の実験も行っています。雪国では鉄塔、電線や信号機などに着雪し日々の生活に影響をもたらします。本風洞のテストセクションを取り外し、吹出し口の上部から人工的に雪を降らせて着雪を再現し、着雪防止の研究を行っています。

本年度をもって定年退職される木村茂雄先生はこの風洞を用いて長年、着氷・着雪の研究をされてきました。来年度より熱流体工学研究室の萩野が引き継ぎ、着氷現象の研究を行っています。

(文責:機械工学科 准教授 萩野 直人)

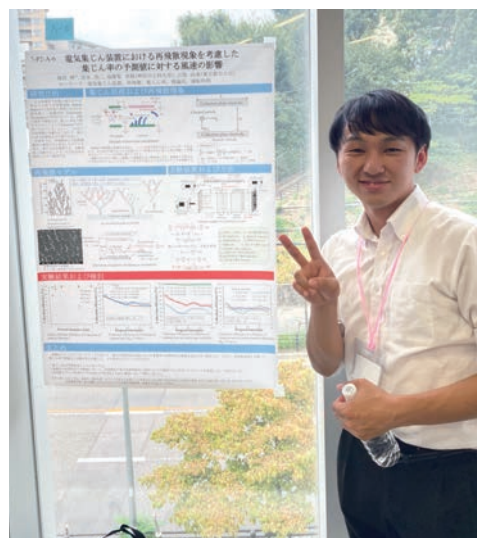
電気電子情報工学科

FACULTY OF ENGINEERING ELECTRICAL AND ELECTRONIC ENGINEERING

学会で研究成果を発表する学生たち！

今年も多くの学生が日頃の研究成果を様々な学会で発表しています。今回は、9月に愛知で開催された「電気学会 基礎・材料・共通部門大会」にて研究成果を発表した、大学院2年生の篠原さんに感想を聞きました。

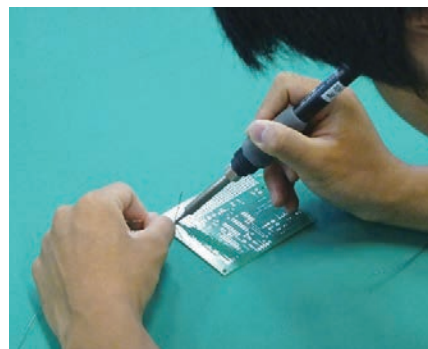
「私は、空気中に浮遊する微小粒子を除去する電気集じん装置に関して研究しています。その性能は時間とともに変化しますが、その理論式は誰も提唱できていません。そこで、独自のモデルを考え理論式を導出し、その妥当性を証明するために実験結果との比較を行っています。日頃は、実験やデータ解析に明け暮れ、教授や研究室の仲間とときには熱くディスカッションしています。学会では、参加者がみんな熱心に意見交換しており、他大学の学生のプレゼンを聞いたり、一緒に議論できたのは刺激的でした。新たなアイデアや視点に触れる機会にもなりました。熱心に質問してくれる他大学の先生もあり、とても励みになりました。今後も失敗にめげずに根気よく研究を続けていき、さらに成果を上げていきたいと意を強くしました。」



(文責:教授 瑞慶覧 章朝)

高校生対象のサマースクールの開催

電気電子情報工学科のものづくりの魅力の一つは、マイコンを使用した電子工作への注力です。本学科では、マイコンを活用した電子工作の楽しさを高校生に広めるために、毎年夏にサマースクールを開催しています。これまで、マイコンを使用した電子工作はブレッドボード上で行われており、特に普通科コース出身の高校生にとって、電子工作は難しいと感じてしまうことがありました。そのため、今年度は、これまでの内容を改良し、誰もが成功体験できるような新しい教材を開発しました。新しい教材の内容の検討には板子先生がご協力し、基板の設計とプログラムの作成には後関先生がご協力いただき、新しいマイコン教材を開発しました。教材の内容は、1. LED点灯回路、2. 光センサを使用した回路、3. 温湿度センサを使用した液晶表示回路です。プログラムに関しては、プログラム未経験者でも分かりやすいように、プログラム中の特定の場所に、例えば「Red」と記述すると赤色のLEDが点灯するように工夫しました。



サマースクールは、7月下旬に3日間行われ、3名の高校生が参加しました。3名とも普通科出身で、電子工作の経験がないとのことで、初日に半田ごての使い方と電子部品の取り付け方を指導しました。数回の練習の後、TAの学生の協力も得ながら、半田付けの本番を行い、全員がスムーズに回路を作成できました。次に、プログラムの作成に取り組みました。簡単な説明の後、受講生全員がプログラムの制作を完了し、望む動作を確認することができました。最終的に、用意した内容を全て終えることができました。受講した高校生にアンケートを行ったところ、全員が十分に満足しているとの回答がありました。このコースを受講して、マイコン回路に興味を持ってもらいたいと考えています。

(文責:教授 工藤 嗣友)

第15回燃料電池コンテスト(燃電コン)を開催しました

7月30日、応用化学科が主催する第15回燃料電池コンテスト(燃電コン)をKAIT工房で行いました。コンテストを通じて高校生に燃料電池の原理を知ってもらうこと、化学反応を利用する装置に工夫を取り入れて実際に動かしてもらうこと、チームワーク活動を体験し協力しあう楽しさを体験することを目的としています。

各チームに簡易的な燃料電池を作製してもらう上で様々な工夫をしてもらい、どのチームがより優れた性能がでせるかを競争しました。工夫の仕方によっては燃料電池の性能に極端な差が出るため、本番では接戦となり、かなり盛り上がったものとなりました。

コロナ禍明けではじめてのコンテストの開催で、また酷暑のなかでもありましたが、高校生を中心に20名近くの方が参加していただき、心より感謝申し上げます。来年度以降も化学の楽しさや奥深さを体験してもらえればと考えています。



着任教員挨拶



応用化学科 教授
村山 美乃

応用化学科に10月から教授として着任いたしました、村山 美乃(むらやま はるの)と申します。出身は東京です。千葉大学で博士課程を修了した後は、岡崎(愛知)、播磨(兵庫)、東京、京都、福岡、と各地の研究所や大学で、研究・教育をしてきました。フランスのグルノーブルというアルプスの麓の街で2年間、研究をしたこともあります。金属ナノ粒子や固体触媒などの無機材料を合成し、その構造と機能を調べる研究をしてきました。講義の担当は4月からになりますが、ナノ粒子や触媒だけでなく、リチウムイオン電池、食品の香りなど身近な題材も使って、工学部らしい最新の話題を取り入れていきたいと思っています。研究室のキャッチフレーズは「無機ナノ材料で、暮らしを豊かに!!」です。化学反応というモノづくりに加えて、実験に使う装置を設計したり、組み立てたりというモノづくりもしながら、豊かで持続可能な社会の実現に役立つ無機材料の研究を進めていく予定です。立ち上げたばかりの新しい研究室へのご指導、応援、どうぞよろしくお願いいたします。

自動車システム開発工学科

FACULTY OF CREATIVE ENGINEERING VEHICLE SYSTEM ENGINEERING

学生がレースで活躍 自動車システム開発工学科で支援している3つの学生レースが開催されました。

「学生フォーミュラ」は静岡県エコパで、8月28日から9月2日にかけて開催がされました。残念ながらバッテリーシステムエラーで動的審査に進めませんでしたが、モータレイアウトをRRに変更して、新しいバッテリーシステムで挑戦し、事前書類審査を全てパスしてEVベスト8で現地に臨むことができたことは大きな自信になりました。また、特別客員教授のGeoff Goddard先生から現地で受けた指導はメンバーの心に深く刻まれました。

ソーラーカーチームは、8月上旬に秋田県大潟村で開催された「WORLD GREEN CHALLENGE 2023」に出場しました。3日間にわたるレースの結果は、総合3位、クラス2位でした。大会期間中は晴れて絶好のソーラーカー日和でしたが、人間には過酷な暑

さでした。大会主催者も急遽ルールを変更して、ドライバーが連続して運転できる時間を短縮しました。このような中、特に二日目以降はトラブル続きでその対応に追われましたが、何とか上位に踏み止まりました。

「自動運転AIカーレース」は神奈川工科大学で9月23日に開催されました。参加チームは本学学生のみならず、他大学や高校生チームが参加しました。前回大会で高校生チームの活躍により上位が独占されたことから、今大会は大学生チームが奮起して無駄のない走行ラインを安定走行し総合優勝を果たしました。また、トレーラー車両が出走した際はカーブが曲がり切れるのか?と全員が一体となって応援するなど盛り上がった場面もありました。参加チームの多様化と広がりを見せる中、人材交流の面でも興味深い大会となりました。



学生フォーミュラ



KAITソーラーカープロジェクト



自動運転AIカーレース

ロボット・メカトロニクス学科

FACULTY OF CREATIVE ENGINEERING ROBOTICS AND MECHATRONICS

ETロボコン2023南関東地区大会に1年生が出場しました

10月7日(土)、本学にてETロボコン2023南関東地区大会が開催されました。初中級者向けのプライマリークラスに15チーム、中上級者向けのアドバンストクラスに3チームが出場し、熱戦を繰り広げました。ETロボコンは、LEGO® エデュケーションSPIKE™とRaspberry Pi®で作られたHackSpiとマインドストーム®EV3で作られたHackEVというロボットを使用することが決められており、プログラムによる技術力を競い合うことを主としています。12畳の大きさの布製のコースで、ライトレースやブロック運びなどを攻略して得られるポイントを競います。さらに、競技結果だけでなく、UMLを使ったモデル図を提出し、その審査結果と合計した総合結果によって、チャンピオンシップ大会に出場できます。今回はその地区大会となります。

ロボット・メカトロニクス学科からは1年生の2名が、「神奈川工科大学A」というチームで参加しました。二人ともプログラミングは大学生になってから学び始めた初心者。モデル図に到っては授業でも習っていないことを、技術講習や試走会など何とか食らいついて勉強し、地区大会に出ることができました。結果は、15チーム中14位、2回の走行の内、1回は中間ゴールを超えることができたが、走行時間がかかってしまったため、2回とも0ptという結果でした。残念な結果ではありましたが、今出場で全体的なイメージがついたようで、次年度は上位を目指したいと大会後に意気込みを示してくれました。

また、大会の運営に当たって、情報メディア学科の有志5名がオープニングとエンディングの動画を作成し、当日は大会の様子をライブ配信してくれました。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科 准教授 吉留 忠史)



スタートの瞬間



本学科の学生とロボコンコース P-03のゼッケンが学科の学生



遠隔からスタートの準備をする本学科の学生



ライブ配信ブースの情報メディア学科の学生

ETロボコン



南関東地区大会の
ライブ映像



ETロボコン

<https://www.etrobo.jp/>

南関東地区大会のライブ映像

<https://youtube.com/live/w6AHFHzEO4>

ホームエレクトロニクス開発学科

FACULTY OF CREATIVE ENGINEERING HOME ELECTRONICS

学科のものづくりサークル「Life Hackers」活動紹介

学科のものづくりサークル「Life Hackers」では二つの活動を進めています。

一つ目は、高大連携・川崎総合科学高校との連携です。今回は川崎総合科学高校の生徒・教員向けに、IoT・スマートハウスの見学会・プログラミング体験会を実施しました。

今後も高校と連携してIoT・スマートハウス教育を進めて参ります。

二つ目は、よこはまファクトリー様との企業連携活動です。本サークルが開発中のIoT教材であるIoTミニチュアハウスを製品として世に出すべく、よこはまファクトリー様(6社合同団体)と共同商品開発を開始し、初回の会合をKAITで実施しました。スマートハウスを様々な場所に持ち運んでIoT教育が出来るように、頑丈かつ手軽に設置して使えるような製品を目指します。

大学一、二年生が中心で活動していますが、独自に高大連携、企業連携を進めており、非常に意欲的に活動しています。

今後の活躍に期待しています。



川崎総合科学高校でのプログラミング体験会



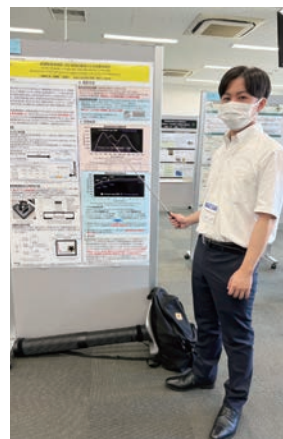
よこはまファクトリー様との企業連携活動

学会活動における学生の活躍!

2023年9月5日に開催された2023年度(第56回)照明学会全国大会において、大学院電気電子工学専攻博士前期課程1年(三栖研究室所属)の細田 亘晃(ほそだ のぶあき)さんが「微細藻類増殖用 LED 照明の開発とその効果の検討ー近紫外線LEDを励起源としたRGB蛍光体層とRB蛍光体層の換装可能なLED照明の開発ー」というタイトルで研究発表を行い、若手プレゼンテーション優秀賞を受賞しました。

受賞した細田さんは、研究および学会発表について、以下のように感想を話してくれました。

「初めてのポスター発表でこのような賞をいただくことができ、大変嬉しく思います。この賞は研究全般を指導して下さいた担当教員の三栖教授をはじめ、ご助言を頂いた応用バイオ科学科の村田教授、協力して下さいた皆様のご助力があつてのものだと考えております。この功績に自惚れず社会に貢献できる人材を目指し、これからも研鑽を積んでいきたいと思います。」



受賞した細田さん

ルーベン先生と英語で実験



ルーベン先生と交えた参加者の集合写真

アンケートでは「とても楽しめた」が100%と楽しみながら充実した時間を過ごしていました。

(文責: 応用バイオ科学科 教授 飯田 泰広)

サウスアトランティックから先生を招いてバイオ特別実験を8月8～10日に開催しました。参加者は16名で、遺伝子組換えやDNAの電気泳動、抗原検査実験などに取り組みました。DNA鑑定で犯人を捜したり、抗原検査で第一感染者を特定したりとゲーム要素を取り込んで行っていました。

社会還元を意識した自主研究の取り組み

応用バイオコース3年生はグループ毎にバイオに関係する未解決の課題を見つけ、解決のための研究を行います。昨今、研究成果の社会還元が求められているため、グループ研究においても「どのようなSDGsに貢献できるか」を意識して取り組んでもらいました。グループの研究結果はポスター形式で最終日に発表し、投票によって優秀発表を選定しました。優秀テーマ賞は「キキョウ根培養のサポニン産生」をテーマとした中野 礼童さん、酒井 海人さん、田中 宏季さん、神山 茜寧さん、湯村 亮哉さん、三橋 亮太さんのグループが選ばれました。また、ポスターのグッドデザイン賞に、吉田 キサラさんが選ばれました。個人作成ポスターの最優秀賞は趙子 儀さんが選ばれました。研究立案・計画・遂行・発表の一連の活動は大変だったと思いますが、今後の卒業研究や就職活動等で役に立つことでしょう。

(文責: 応用バイオ科学科 教授 井上 英樹)



優秀テーマ賞を受賞したグループ

三崎での臨海実習

生命科学コースでは、生物の多様性や季節・環境による変化など、本に書かれた内容のみでは得ることが難しいことを学ぶため、フィールドワークによる「本物」の情報を収集する学修に力を入れています。その集大成として、3年次の夏休みを利用し、東京大

学三崎臨海実験所の施設をお借りして2泊3日の臨海実習を行いました。ドレッジ採集、プランクトン採集、磯採集といった方法で海洋生物を採集し、生育環境ごとの多様性について学びました。また、130年以上の歴史が詰まった博物館や水槽室において、貴重な生物試料等を見学して学びを深めました。特に船に乗っての採集は、実生活では経験できないことであり、印象に残ったようです。泊りがけの実習により親睦も深まり、大変有意義な実習となりました。



全体写真



プランクトン採集(船に乗っての採集)

(文責: 応用バイオ科学科 准教授 山下 直也)

着任の挨拶



応用バイオ科学科 准教授 柴田 大輔

今年の9月より応用バイオ科学科に着任いたしました柴田大輔と申します。海産無脊椎動物を用いて生殖や発生の研究を行っています。生物は一般に有性生殖を行います。配偶子を伴わない無性生殖も存在し、生物は子孫を残すために様々な生殖戦略を持っています。私の研究室では、卵と精子がどのように形成され、どのように受精し、それらが複雑な形態や機能を持つ成体へとどのように成長するのかわかるために、海産無脊椎動物の発生や生殖様式に着目し、生殖戦略に関する研究を行っています。よろしくお願いいたします。

【専門】

発生生物学、繁殖生態学

【担当授業科目】

生命科学基礎ユニットプログラム、生命科学実験、発生生物学、海洋生物学、卒業研究

UCDワークショップに情報工学科学生が4名参加

情報工学科では文部科学省の推進する高度IT人材を育成する産学協働の実践教育ネットワークの中で、成長分野を支える情報技術人材の育成拠点(enPit)の一つである公立はこでて未来大学と大学間協定を結び、本学でソフトウェア工学系の単位とプログラミング言語系の単位を既に取得した上で、プロジェクト学習(PBL)を受講中の学生で希望者を対象に毎年公立はこでて未来大学と共同でワークショップを開催しています。

本年は、User-centered Design(UCD)ワークショップを9/17,18の2日間開講し、「使いたくなるUCD」について未来大の学生と合わせて26名の学生が参加しました。

ワークショップ内では、イメージの共有の際に、絵が下手でも簡単なイラストが描けるようにと分かりやすい人の書き方や、付箋のジオラマを使ったシナリオ作成などアイデアの共有方法などを行い、プロジェクトの開発や卒業研究での開発でも活用可能なサービスデザインスキルを身に付けさせることができました。

(文責: 情報工学科 教授 清原 良三)



IT夢コン2023を開催しました

8月5日に本学において第13回「U18 IT夢コンテスト2023」の最終審査をオンラインで開催しました。今年度は42校91作品の応募がありました。これらの作品の中から5作品(5校)が最終審査に臨みました。今年度は発表時間が15分と長めとなり、細かい部分までしっかりと発表され、また審査委員との質疑応答もしっかりとされていました。

発表後は交流を深める懇談会も行われ、最後に表彰式が行われました。今年度は法政大学第二高等学校の伊藤心愛さんによる「駅ナカ Coco Robo カウンセラー: 駅の個室レテワークBOXが心のカウンセリングルームに」が最優秀賞に選ばれました。その他の受賞作品と代表名はIT夢コンテストのサイト(<https://kait.jp/yume>)からご確認ください。なおIT夢コンは今年度で最後となりましたがこれまでの参加者および関係各位の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

(文責: 情報工学科 教授 木村 誠聡)



サマースクール「パソコンの組み立て」を開催しました



8月18日に情報工学科のサマースクール「パソコンの組み立てとサーバ用OSのインストール」を開催しました。参加者は7校12名で、初めてパソコンを組み立てる生徒も多く、皆さん一生懸命取り組んでいました。サマースクールは高校生に大学を理解してもらう場であり、今回のパソコンの組み立ては学部2年生の実験とほぼ同じ内容となっています。今後も学科として取り組みを進めてまいります。

(文責: 情報工学科 教授 木村 誠聡)

2年N科 選択科目「マルチメディア処理」紹介

この科目では、現代社会において欠かすことのできないデジタル音声やデジタル画像について、その基礎事項から最終的にはマルチメディア情報圧縮の仕組みまでを扱います。

科目の導入部分では、「音とは何か?」「画像とは何か?」から始めます。これらは連続量（いわゆるアナログ）ですが、ここからデジタル化の話（A-D変換）に至ります。デジタル化することで、音や画像をデジタルデータとして扱えるようになりますが、それらをスマートフォンやPC等の機器を使用して扱う際にはその膨大なデータ量が問題となり、通常、私たちがデジタル音声やデジタル画像を扱う際にはデータ量を削減した（圧縮された）形で扱うこととなります。そこでこの科目では次に、その圧縮の原理や仕組みについて取り上げます。

しかし、こう言った内容を理解するためにはその基盤となるものとして、音や画像の周波数解析に関する知識が必要となります。そのための道具としてフーリエ変換などについても一通り説明を行います。併せて、必要となる数学

（三角関数や微積分）についても復習しながら進めて行きます。このような周辺知識についての解説がどうしても多くなってしまうのですが、理解には欠かせないため、出来るだけ丁寧に進めるように心がけています。また、PCで実際にフーリエ変換を行うような課題も出しますので、学生諸君も単に解説を聞いているだけではなく、課題を通じて理解を深めることができるようにしています。

科目の到達目標となるマルチメディア情報圧縮については、その基となる様々な情報圧縮の手法について紹介した後に、静止画像の代表的な圧縮手法であるJPEGコーデックをメインに取り上げ、その仕組みについて出来るだけ分かり易く解説を行います。また、JPEGを利用する上での問題点などについても取り上げます。

この科目を通じて、普段何気なく利用しているデジタル音声・画像について、理解を深めることができるものと思います。

（文責：情報ネットワーク・コミュニケーション学科 講師 須賀 弘道）

情報メディア学科

FACULTY OF INFORMATION TECHNOLOGY INFORMATION MEDIA

東京ゲームショウ2023に「ゲームクリエイータ特訓」作品出展



「Spin Tower Tokyo 塔魂激突」



「声波万波(せいはいばんぱ)」

ゲームクリエイータ特訓は本学科のユニークな取り組みのひとつです。メンバーは情報メディア学科所属の2年生から選抜され、1年以上の期間をかけて、ゲーム企画の立案・検討、ゲームプロトタイプ的设计から実装、展示装飾までを手がけます。本年、東京ゲームショウは例年通りの運用に戻ったこともあり、4日間とも本学ブースは盛況で試遊は全く途切れませんでした。

出展作品は2つあり、1つは「Spin Tower Tokyo 塔魂激突」です。東京の著名な「タワー」が激突バトルを繰り広げるアクションゲームです。制作はUnityを用いていますが、ロータリエンコーダをベースとした独自コントローラを設計・実装して、誰もが夢中にタワーを回す「熱い」操作を実現しました。

もう1つは、声のみで遊ぶ「声波万波(せいはいばんぱ)」です。これもUnityをベースとして、声から波の高さをコントロールする独自手法を実装しています。声による波のコントロールが実装の難点でしたが、出展までに試遊を繰り返し、調整を進めました。Windows版のほか、Android版・iOS版も出展しました。

これらの作品は、ネットメディア(日経クロストrend、GameMakers)の取材を受け注目を浴びました。また、酒井研究室4年生の山田悠貴君がIGDAスカラシップに採択され、チェスのような独自のボードゲーム「ターバンタクティクス」を出展し、出展の時間が限られる中、これも高い評価を得られました。

（文責：情報メディア学科 教授 酒井 雅裕）

日経クロストrend



GameMakers



山田君レポート



日経クロストrend

<https://xtrend.nikkei.com/atcl/contents/18/00893/00061/>

GameMakers

https://gamemakers.jp/article/2023_09_26_50458/

山田君レポート

<https://www.igda.jp/2023/09/30/14110/>

教育専門講師をお迎えしました

情報メディア学科では、このたび専門教育講師をお迎えしました。専門教育講師は教育開発センターの所属ですが、本学科と密に連携し学生教育に携わっていただいています。担当授業科目は、情報メディア基礎ユニットII、情報メディア導入ユニット、プログラミング等です。



講師 延原 宏

2020年3月放送大学大学院文化科学研究科情報学プログラム専攻修士課程を修了。2023年8月まで33年間、高等学校にてプログラミング教育を担当。全国パソコン技能競技大会団体・個人優勝の指導実績により、平成26年度文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞。生徒の学習所見を自動生成するソフトの開発で、第35回学習デジタル教材コンクールで奨励賞。コンテンツ開発を通じた地域活性化について興味あり。

看護学科4年生の看護統合実習発表会

看護学科4年生は、8月20日から9月1日までの2週間で看護統合実習を行いました。この科目は、「これまで習得した看護実践能力を基盤に、対象が持つ看護問題を保健・医療・福祉の関係諸機関の専門職とのチーム医療を通じて、必要な看護を統合的にマネジメントするための基礎能力を養う」ことを目的とした、4年間の大学生活での最後の臨地実習となります。この看護統合実習では、複数の患者様を受け持たせていただき、優先順位を考えながら実践する複数受け持ち実習、看護管理者の視点から学ぶ管理実習、夜勤帯での看護を学ぶ夜勤実習など今までの実習とは内容も違う実習となっています。最終日には、4年間の集大成として10日間の学びとこれからの課題について発表し、「就職後のイメージにつながった」、「自分自身の課題が明確になった」、「就職後は自

分の視点からだけではなく管理者の視点を考えながら、患者様の最善の看護を考える必要性がわかった」、「自分自身の看護観を確立することができた」との学びが発表されていました。さらに、学生同士で質疑応答をしながらさらに学びを深めることができました。

最後に、科目責任者の新実絹代教授から、半年後からは地域や病院などで看護師や保健師として働くため、更なる自己研鑽を積んで欲しいと4年生にエールが送られました。4年生一人一人が卒業後に自身の目指す看護師像に近づけるように、そしてチームの一員として活躍できるように、残りの大学生活を充実させていただきたいと思います。

(文責:健康医療科学部 看護学科 広報担当 欠ノ下 郁子)



管理栄養学科

FACULTY OF HEALTH AND MEDICAL SCIENCES NUTRITION AND LIFE SCIENCE

健康医療科学部3学科 (看護学科、臨床工学科、管理栄養学科) 多職種連携教育授業について

8月9日(水) 標記授業が行われました。本授業は、現在の医療において多職種連携によるチーム医療が重要視されていることに鑑み、その意義を理解してもらうことを目的に開催しているもので、今年で3回目を迎えました。

2限に各学科の教員による多職種連携の重要性についての講義、3限と4限は、心疾患の手術が施行された血液透析患者を想定し、症例検討を行いました。学生たちは、本症例のより良い管理を目指しそれぞれの立場から意見を出し合い、熱心に議論し、最後にその内容を発表し総合討論を行いました。

参加した学生からは高い授業満足度が得られ、とても充実した1日とすることができました。

(文責:教授 菅野 丈夫)



グループディスカッションの様子



発表と総合討論の様子

キャリア就職ガイダンスを行いました

9月26日に本学科3年生を対象とした本年度2回目の学科キャリア就職ガイダンスを行いました。今回は就職内定を決めた4名の4年生にそれぞれの就職活動体験および後輩へのアドバイスをしてもらいました。病院やドラッグストア、給食受託会社など、それぞれに応じた新鮮な実体験の話から、今後どのように就職活動をしたら良いかイメージができたのではないのでしょうか。

続いて、10月14日にはキャリア就職課とともに、OB懇談会と業界職種研究会を実施しました。食品企業や保育園など、様々な企業から直接話を聞いたり、質問できる貴重な機会だったと思います。また、公立病院や保健センターで働く先輩方の生の話を聴くことにより、公務員を希望する学生にとって有意義だっただけでなく、本学科の多様な進路の可能性について考えるよい機会になったはずです。希望する進路に向けて今後の皆さんの活動のヒントにしてください。

(文責:准教授 澤井 明香/宮本 理人)



管理栄養学科の国家試験対策について

2024年3月3日の国家試験に向け、4年生約50名の学生に国家試験受験意思確認を行い、10月23日に第38回管理栄養士国家試験出願説明会を実施しました。説明会後には、出願書類の作成を行いました。夏休みには専任教員による集中的な授業を行い、模試の点が向上するなどの学習効果が出ています。

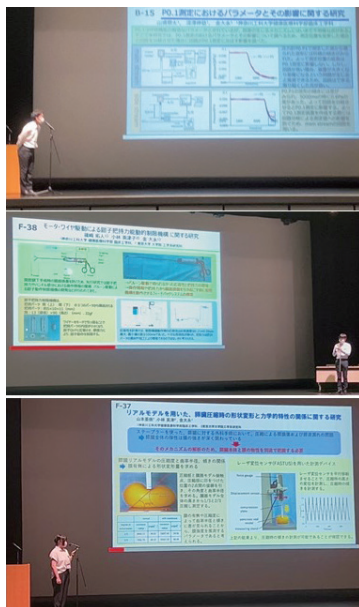
また、3年生は9月6日から5日間、外部講師の先生をお招きして国家試験対策講座を実施しました。国家試験対策講座翌日に模擬試験を実施し、これまでの学習の定着度を確認しました。

全員合格目指して、教員一同、学生への支援を継続してまいります。

(文責:准教授 三宅 理江子)

生体医工学シンポジウム2023参加報告

2023年9月8日から二日間、生体医工学シンポジウム2023が熊本市で開催されました。主催の日本生体医工学会は、第2種ME技術実力検定試験の主催者として臨床工学科の学生にはなじみのある学会でもあります。臨床工学科金研究室の篠崎 拓人、山浦 僚太（深澤教授との共同研究）、山本 亜依の学部生3人は、後援会学会発表助成金を利用して今まで行ってきた卒業研究の成果を発表しました。皆の前で1分スピーチをし、製作したポスターの前で1時間ほど各専門の参加者から質問を受け、活発な討論をしました。また、先端の研究を聴き、良い刺激も受けました。臨床工学科は4年に臨床実習や国家試験の準備もあり、卒業研究を行うことがなかなか大変です。その中、冬休みも夏休みも休まず研究を頑張って、修士以上の発表者が殆どである学会で胸を張って発表出来たことを、心から誇りに思います。個人的には、学会のことだけではなく、旅費申請から請求までの一連の流れも学生にとっては非常に素晴らしい経験になったと思います。最後に、ポスター印刷や事務手続きなどでご協力頂いた事務の方々に深くお礼を申し上げます。（文責：臨床工学科 教授 金 大永）



1年次後期「基礎医学実習」の紹介

当科では1年次の前期に全員が“解剖学”を履修しますが、後期に“基礎医学実習”を履修し、以下の基礎医学分野についての理解をより深めます。

- “人体構造の把握(呼吸・循環器系、腎・代謝系、消化器系、神経系)”
- “リンパ組織の機能と病態(講義)”
- “組織標本の顕微鏡観察(サル動脈・腎臓)”
- “検体検査の基礎技術(血液)”
- “循環機能の測定と評価(血圧・心電図)”
- “清潔操作と感染対策(標準予防策)”
- “一次救命処置(心臓マッサージ・人工呼吸)”
- “臓器解剖(ブタ心臓・腎臓)”
- “医療施設見学”



説明していただいた西村技士と説明を受ける当科1年生

第2週(9/28)には、藤沢市にある医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院(米国国際医療機能評価機関: JCI認証施設)に伺いました。及川陽平技士長(当科非常勤講師)や西村健桃技士(当科1期生)のほか、多くの臨床工学技士の方々から、“血液浄化業務”、“呼吸器業務”、“人工心肺業務”などで扱われる生命維持管理装置と臨床工学技士の業務についての説明を受け、実際の現場を見学させていただきました。（文責：臨床工学科 教授 渡邊 紳一）



ドクターヘリの発着ポートを見学

学生☆活躍

情報メディア学科の学生がDICOMO2023シンポジウム及び、デジタルコンテンツ制作発表会で受賞

富山県で7月5～7日に開催された情報処理学会で、本学情報メディア学科4年生(鈴木研究室所属)の満洲 彩久良さんが野口賞を受賞しました。また、Dicomo2023に併設で開催された情報処理学会DCC研究会主催のデジタルコンテンツ制作発表会「インタラクティブ部門」に出展し、優れたデジタルコンテンツ作品に与えられる優秀賞も同時に受賞しています。



受賞した満洲 彩久良さん

大学院応用化学・バイオサイエンス専攻の学生2名がトヨタ女性技術者育成基金育成プログラムに合格

応用化学・バイオサイエンス専攻博士前期課程1年の石田 弥々さんと宇佐美 優乃さんが、トヨタ女性技術者育成基金育成プログラムに合格しました。

このプログラムは、次世代を担う女性技術者活躍促進のための奨学育成事業で、トヨタ自動車(株)を中心に関連企業9社で設立した基金です。



宇佐美 優乃さん(左)と石田 弥々さん(右)

大学院機械システム専攻の学生が自動車技術会優秀ポスターセッション賞を受賞

2023年5月24日(水)～26日(金)、パシフィック横浜にて開催された「自動車技術会2023年春季大会 学術講演会」において、大学院機械システム専攻博士前期課程1年の清田 拓実さんが、脇田 敏裕教授が優秀ポスターセッション賞を受賞しました。



受賞した清田 拓実さん

大学院電気電子工学専攻の学生が照明学会全国大会若手プレゼンテーション優秀賞を受賞

9月5日に開催された2023年度(第56回)照明学会全国大会で、大学院電気電子工学専攻博士前期課程1年(指導教員:三栖 貴行教授)の細田 巨晃さんが、若手プレゼンテーション優秀賞を受賞しました。



受賞した細田さん

大学院機械システム専攻の学生が国際会議IWINでStudent Awardを受賞

大学院機械システム専攻博士前期課程1年の清田 拓実さんが、2023年9月に開催された国際会議17th International Workshop on Informatics (IWIN 2023)においてStudent Awardを受賞しました。



受賞した清田 拓実さん

情報工学専攻・大学院生がFIT2023にてFIT奨励賞を2大会連続受賞

2023年9月6日に開催された情報処理学会等が主催するFIT2023(第22回情報科学技術フォーラム)において、大学院情報工学専攻博士前期課程1年生(納富研究室所属)の齊藤 仁さんがFIT奨励賞を受賞しました。昨年度開催のFIT2022に続き2大会連続の受賞となりました。



受賞した齊藤さん

CODE BLUE 2023にて情報工学専攻大学院生のツールが採択されました

世界トップクラスの情報セキュリティ専門家によるサイバーセキュリティ国際会議CODE BLUE 2023に本学の情報工学専攻博士前期課程2年生 赤羽 秀さんのツール「stelftools: クロスアーキテクチャに対応した静的結合されたライブラリ関数の特定ツール」が採択されました。CODE BLUE 2023は採択率が10倍以上のトップクラスの国際会議です。

CODE BLUE 2023は2023年11月8日(水)～9日(木)に東京で開催されました。

情報工学専攻の大学院生が情報処理学会で山下記念研究賞を受賞

大学院情報工学専攻博士前期課程2年の赤羽 秀さんが2023年度コンピュータセキュリティシンポジウム2022で、最優秀論文賞に選定されました。発表論文:「xltrace: クロスアーキテクチャに対応したライブラリ関数のトレース手法」

ソーラーカープロジェクトのメンバーが「広報あつぎ」で紹介されました

広報あつぎ2023年10月15日の号「熱気人(あつぎひと)」のコーナーで、本学のソーラーカープロジェクトで活動する石山 敬太さん(自動車システム開発工学科 4年)が紹介されました。



ソーラーカープロジェクトの石山 敬太さん

学生団体「KAIT EDTC」

小・中・高校生にロボット制作などモノづくりの楽しさを教える活動をしている、学生団体「KAIT EDTC」。設立者でKAIT EDTC代表の佐々木勇輝さん（博士前期課程 ロボット・メカトロニクスシステム専攻1年）に活動内容についてお聞きました。

■KAIT EDTCの設立と活動内容



将来、起業したいと思いさまざまな活動をしていましたが、その中で多くのことが自分に足りないと感じました。そこで、大学生活で学科の勉強と同時に起業について学べるように、企業の様に活動する団体「KAIT EDTC」を大学3年生（2021年）の4月に設立しました。

今までの活動で特に印象深かったのは、静岡県富士市の「ものづくり力交流フェア」です。多くの会社員の方から、社会的な視点でのコメントをいただき、私たちの活動に足りないものや、力をいれるべき活動を知ることができました。

*34名（大学院生2名、4年：2名、3年：10名、2年：11名、1年：8名/2023年4月現在）

■企業のように分かれた5つの部署

営業部：学内外からの窓口になり対応。新たな授業や展示先の開拓。

総務部：書類の提出や管理、ロボットの発注や在庫管理など。

企画部：ロボットの開発を行い、授業内容を工夫する。

広報部：X（旧Twitter）、Instagram、YouTubeでの活動とHPの作成。

人事部：メンバーの仕事を管理。仕事の振り分け。



■熊谷遼斗 企画部

創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 1年生
ラインをセンサーで反応させて迷路を走らせる「ラインレースロボット」の開発でリーダーをしています。



■飯塚聖空 企画部

創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 1年生
僕が考案した、中心部にいろいろなパーツを取り付けて自由な発想で作れる「組み換えロボット」の制作と動画編集をやっています。



■鈴木一平 広報部

創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 2年生
PR動画の制作を担当しています。部署内で「報 連 相」*をしっかりとできるように改善したことが印象に残っています。今後はマニュアルの制作なども考えています。
*報告・連絡・相談の略



■渡邊拓真 企画部

創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 2年生
2年生2人で、展示会や授業でも使っていける回路ロボットを製作しています。

<1年間の主な活動実績>

- ・ 藤嶺学園藤沢中学校での授業（10回以上）
- ・ オープンキャンパスでの展示とKAIT EDTCについての説明
- ・ 幾徳祭に出展 KAIT工房での展示
- ・ 静岡県富士市の発明くふう展にてロボットの展示
- ・ 静岡県富士市のものづくり力交流フェアへの出展 など



■今年度の活動の手控え

まずは、団体の活動の理念が大きく変わりました。今までは「教える団体」だったのですが、「教える側も、教わる側のどちらもが学び合える環境を作る」ことを大事にしたいという考え方に変わりました。

授業や展示ができる場も増えました。4月の時点では私の母校の藤嶺学園藤沢中学校だけでしたが、新たに神奈川工科大学厚木市子ども科学館で展示と授業ができることになりました。展示はもう何回もやっていて、来年3月には授業も行います。さらに、厚木市内にある「あさひ学苑」（放課後等デイサービス）での展示と授業が決まり、11月に初回の授業を行いました。どちらの施設でも、子どもたちにロボット製作を教えながら、私たち子どもたちや先生方と交流することで色々なことを学べると思います。現在は、授業や展示に向けて、それぞれの部署で準備を進めています。



KAIT EDTC HP・SNS紹介



先頃策定された、20年後の大学の姿を描く長期ビジョン「KAIT Vision60」では、社会貢献の方針の一つとして「本学(教職員、学生)と地域との連携強化」があげられています。

このような地域連携の活動の中心を担うのが「地域連携・貢献センター」や「地域連携災害ケア研究センター」です。このコーナーでは両センターの活動をピックアップしてご紹介します。

9/9 (土) 第58回富士市発明くふう展

学校の特色を活かした作品や展示を行う「富士市発明くふう展」へ出展。本学からは学生団体「KAIT EDTC」がロボットの展示を行いました。



10/12 (木) 伊豆市熊坂小学校ロボット教室

ホームエレクトロニクス開発学科 金井 徳兼 教授による、レゴロボット・プログラミング教室を実施しました。当日は、地元静岡県沼津工業高校出身、電気電子工学専攻中山鴻志さんも講師として加わりました。



9/24 (日) あつぎSDGsフェスティバル

10/15 (日) まちづくりフェスタ

それぞれアミュあつぎとユニコムプラザさがみはら(相模大野)で行われ、本学からは学生団体「KAIT SDGs HUB」のメンバーが考案した「SDGsすごろく」体験を出展しました。



10/12 (木) 足立区生涯学習センター講演

「マイクロプラスチックと私たちの暮らし」と題して、応用バイオ科学科 和田 理征 准教授による講演を行いました。



10/7 (土) スマホを持ってあつぎを歩こう ～第2回目「厚木のちょっと昔を思い出しながら」

2回目の今回は、厚木の「かなり昔」を学んだり「ちょっと昔」を思い出しながらのウォーキングしました。



10/19 (木) 平塚保健福祉事務所 難病患者在宅ケア従事者研修会

「やってみよう、電気自動車からの給電」と題して、臨床工学科 山家 敏彦 特任教授が講師として講義とデモンストレーションを行いました。



経営管理本部

管財課

尾瀬国立公園で外来植物除去ボランティア活動実施

「学生ECO推進チームみどり」は、9/11～9/12に尾瀬国立公園内の至仏山荘周辺で国立公園を管理されている東京電力グループ企業の皆様に協力いただき、セイヨウタンポポやシロツメグサ等の外来植物除去のボランティア活動を実施致しました。また、尾瀬の木道を歩きごみ拾い活動も実施致しました。

2016年から2019年まで4年連続で実施していましたが、新型コロナウイルスの影響で2020～2022年は実施できず、今年4年ぶりに再開しました。



学生支援本部

教務課

今後の主な予定

■後期授業関連

勤労感謝の日(通常授業日): 11月23日(木)

創立60周年祝賀会(休講): 11月29日(水)

補講日: 12月26日(火)～27日(水)

冬期休業期間(事務室閉室): 12月28日(木)～1月5日(木)
授業再開: 1月6日(金)

大学入試共通テスト(休講・事務室閉室): 1月13日(土)

後期授業終了日: 1月22日(月)

補講日: 1月23日(火)～24日(水)

定期試験期間: 1月25日(木)～27日(土)

追試験期間: 2月3日(土)～6日(火)

■後期学業成績表の公開: 3月5日(火)

保護者ポータルサイトにて公開を開始します。

※学業成績表の個別郵送は、いたしません。

必ずポータルサイトにてご確認ください。

ポータルサイトにログインするためにはIDとパスワードが必要です。IDとパスワードについては本年5月に送付しております保護者のしおりをご参照ください。

■学位記授与式・卒業式: 3月20日(水・祝)

※開式時刻などの詳細については、2月下旬に決定する予定です。

■2024年度からの授業時間の変更について

2024年度から1時限分の授業時間を100分に変更いたします。これにともない各時限の授業開始・終了時刻が変更となります。この変更は2024年度前期から全授業で一斉に実施いたします。

これらは現在進めている教育改革の一環として実施するもので、これらを活かした学習効果を高める教育施策を今後進めます。在学生、保証人(保護者)の皆様には、変更の目的をご理解いただき、これまで通り、授業運営へのご協力をお願いいたします。

<2024年度から>

◆1時限分の授業時間が100分になります。

◆前期・後期の授業期間が15週から14週になります。

◆第1～5時限の授業開始・終了時刻は次のとおりになります。

2024年度からの授業開始・終了時刻

時限	2024年度から(100分授業)	
	開始	終了
第1時限	9:30	11:10
第2時限	11:20	13:00
(昼休み)	13:00	13:40
第3時限	13:40	15:20
第4時限	15:30	17:10
第5時限 (補講等)	17:20	19:00

※5限は、補講、またはやむを得ない事情で配置する科目のみとし、可能な場合はオンデマンド授業への転換もします。

※急行バス(本厚木-大学)の運行時間も変更となります。具体的な時刻表は決定次第お知らせいたします。

教職教育センター

令和6年度採用(令和5年度実施)教員採用試験状況

今年度本学関係の受験者は現役16名、卒業生33名の計49名で、その内訳は「表1」の通りです。その内1次合格者は「表3」の通り33名、特に現役の1次合格者は11名でした。また2次合格者は現役6名、卒業生13名の合わせて19名で、これまでで一番多い合格者数となっています。特に栄養教諭の現役合格は初めてです。

()内は昨年

表1 校種別受験者数 49(43)	校種	人数	受験教科	
中学	15(13)		数学	7(6)
			理科	5(5)
			技術	3(2)
			工業	6(5)
高校	32(27)		数学	5(5)
			理科	16(14)
			情報	5(3)
			栄養	1(2)
			他	1(0)
小学校	2(2)			
特別支援	0(1)			0(1)
合計	49(43)			49(43)

※49=16(現役生)+33(卒業生)

※昨年 43=7(現役生)+36(卒業生)

表2 受験都道府県 55(46)	都道府県	人数
	青森	1(1)
	岩手	1(1)
	福島	1(0)
	茨城	2(0)
	栃木	1(0)
	群馬	1(2)
	埼玉	0(1)
	東京	0(1)
	神奈川	39(31)
	横浜市	4(1)
	相模原市	0(1)
	山梨	0(1)
	長野	0(1)
	静岡	4(4)
	浜松市	1(1)
	延べ数	55(46)

表3 神奈川工科大生の状況(一次)			
一次合格者数 33(20)	教科等	人数	合格県内訳
	中学数学	2(0)	神奈川 1 栃木 1
	中学理科	4(2)	神奈川 2 青森 1 横浜 1
	技術	3(2)	神奈川 1 横浜 2
	工業(機)	1(1)	神奈川 1
	工業(電)	5(2)	神奈川 4 静岡 1
	工業(化)	0(2)	
	高校数学	2(1)	神奈川 2
	高校理科	10(6)	神奈川 8 茨城 1 静岡 1
	情報	4(3)	神奈川 4
	栄養	1(0)	静岡 1
	小学校	1(0)	神奈川 1
	特別支援	0(1)	
	計	33(20)	神奈川 24 その他 9

現11、卒22

※昨年 現3、卒17

表4 神奈川工科大生の状況

一次合格者数 19(12)	教科等	人数	合格県内訳
	中学数学	2(0)	神奈川 1 栃木 1
	中学理科	3(1)	神奈川 1 横浜 1 青森 1
	技術	2(1)	横浜 2
	工業(機)	1(1)	神奈川 1
	工業(電)	4(2)	神奈川 4
	工業(化)	0(2)	
	高校数学	2(1)	神奈川 2
	高校理科	4(2)	神奈川 4
	情報	0(1)	
	栄養	1(0)	静岡 1
	小学校	0(0)	
	特別支援	0(1)	
	小計	19(12)	神奈川 13 静岡 1 青森 1 栃木 1 横浜 3

現6、卒13

※昨年 現3、卒9

学生課

「父母説明会」開催(対面形式・オンデマンド形式)について

本年度の父母説明会は、4年ぶりに本学において対面形式で3日間(8月26日、9月2日、9日)開催され、大学の近況報告、学生生活関係、成績関係およびキャリア就職関係について説明いたしました。

また、9月11日より、オンデマンド形式で上記に加えて学科ごとの学修に関する説明動画を公開しておりますので、本学ホームページの「学生生活」から「父母説明会(オンデマンド)」のご案内より是非ご覧ください。

URL <https://www.kait.jp/campuslife/guardian/>



キャリア就職課

2025年卒生対象【就活セミナー以外の支援プログラム】

●就職力アップ講座

10/14(土)〈1限～5限〉学内教室

※事前申込制で、学内での対面式を予定。

●本学主催の業界・職種研究会および業界説明会
※印以外は対面式

【業界・職種研究会】

電気設備業界企業: 10/11(水)・13(金)・25(水)・27(金)
学内 K3号館 3407教室・3603教室

管理栄養士職関連: 10/14(土) 学内 図書館4階 閲覧室
産学連携協定企業: 11/11(土)〈13:00～16:00〉
学内 KAITアリーナ1階

業界大手企業: 11/25(土)〈13:00～16:00〉 レン
ブランドホテル厚木・11/27(月)〈17:00～18:10〉
※オンライン

【業界説明会】 2/19(月)～21(水)・2/28(水)～29(木)
ブランドホテル厚木

2月開催は参加企業数最多。本学が主催する説明会で、最も多くの企業が参加します(約300社参加)。参加するすべての企業が本学学生を積極採用したいと考えている企業です。複数の企業の説明を聞き、比較することで志望動機を明確にすることができます。

●集中面接対策講座(日帰り2日間) [定員80名]

12/16(土)・17(日)〈1限～5限〉学内教室

※事前申込制で学内での対面式

●その他のガイダンス

学校推薦説明会: 1/10(水)～12(金)・15(月)〈昼休み(12:45-13:15)〉

留学生就活ガイダンス: 12/14(水)〈5限〉 ※オンライン
公務員関連(公務員試験対策ガイダンス): 〈1月中旬〉

<創立60周年記念>

神奈川工科大学 国際シンポジウム2023を開催しました Science and Technology for Global Environment and Future Generations 地球環境を支え、人々の未来を創る科学技術

8月29日(火)から8月31日(木)の3日間、創立60周年記念「神奈川工科大学 国際シンポジウム2023」が、海外協定校等とリアルタイムネットワークで結びハイブリッド(本学+配信)にて、開催されました。

基調講演では、小宮一三学長が本学の活動の現状と今後の方向性について紹介。続いて行われた特別講演では、本学と関わりが深いタイ王国のチュラロンコン大学(Chulalongkorn University)のRatchatin CHANCHAROEN准教授が、過去10年に渡る同大学と本学の交流の実績と次の10年に向けての計画が紹介されました。また、29日午後からは、国内外の研究者26名(海外17名、国内9名)による研究・文化交流や、学生の研究発表などが行われ、活発でかつ内容の濃い大変有意義なシンポジウムとなりました。



■プレゼンテーション

国内外の研究者が、各自が取り組む最先端の研究について発表し、質疑応答や意見を交わしました。

■パネルディスカッション

1. eスポーツを活用した学生間の国際交流
2. メタバースにおけるAI導入に向けた新しい視点

3日間の様々な交流が、ご参加いただいた皆様の研究や活動に活かされることを願うと共に、本学のグローバル化への取り組みを推し進めていきたいと考えております。神奈川工科大学 国際シンポジウム2023の開催にあたり、ご協力いただいた本学内外の皆様に深く感謝いたします。

主催 神奈川工科大学

後援 神奈川県教育委員会、厚木市、厚木市教育委員会、神奈川新聞社

支援 The Great Britain Sasakawa Foundation

第48回幾徳祭を開催

11月4日(土)、5日(日)に、第48回幾徳祭が開催されました。コロナ禍の影響で、昨年まではさまざまな制限がありましたが、今年は一般の方の参加も可能になり大いに盛り上がりしました。また、幾徳祭に合わせて4日にはホームカミングデーも開催され、多くの卒業生が参加しました。



2024年度開設 工学部 応用化学生物学科

文部科学省の令和5年度「大学・高専機能強化支援事業」における「学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援」に選定されました。

本学科には、応用化学コース、応用バイオコース、生命科学コースが設置されます。物質や生物・生命の仕組みを解き明かし、新たな発見で社会をより豊かにする研究者・エンジニアを育成していきます。



創立60周年ロゴマーク



創立60周年を機に策定した記念ロゴには「大学をとりまく地域社会や地球環境とともに進化・成長する」という、「未来」に向けた神奈川工科大学の想いと決意が込められています。

また、本学の設立者である中部謙吉とゆかりのある大洋漁業(現マルハニチロ)株式会社、大洋ホールズ(横浜DeNAベイスターズ)からクジラを「はじまり」のモチーフとして取り入れました。